



福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティ・ペーパー

「そうま・かえる新聞」 2016年3月 第22号

発行所：そうま・かえる新聞編集部

〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内
問い合わせ・配達希望：somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため
わたしたちは生き方を「変える」。
いのちを何よりも大切に「考える」。
まちをゲンキに「変える」。



http://somakaeru.com



▲全面改修工事が終了した双葉屋旅館



▲玄関を入ると「おかえりなさい」の文字が迎えてくれる

双葉屋旅館の挑戦

東京電力福島第1原発から20*圏内で、今も避難指示区域となっている南相馬市小高区は、今年春に避難指示が解除になる予定です。JR小高駅前の老舗旅館「双葉屋旅館」は、避難指示解除後の本格的な事業再開を目指し、4代目女将の小林友子さん(63)が急ピッチで準備を進めています。東日本大震災では津波被害にも遭いましたが、現在は改修工事も終わり、本格営業を目前に控えています。(タカノシンジ/南相馬市)

被災から5年

原発事故の影響で今も機能していないJR小高駅。その駅を出るとすぐ左手に双葉屋旅館があります。

東日本大震災前は、立地の良さもあり、問屋やビジネスマンなどが多く利用し、馴染みの常連客もたくさんいました。第二次世界大戦中は、都会から疎開した子どもたちの受け入れを行っていたこともある老舗の旅館です。

2011年3月11日、東日本大震災で発生した津波は、海岸から3*ほど内陸にある双葉屋旅館も襲いました。幸い、家族経営の従業員や宿泊客に犠牲者はなかったものの、建物は床上浸水し、部屋には大量の土砂が入り込みました。早期の改修が必要な状態でしたが、すぐに小高区全域が原発事故による避難指示区域に指定されます。

小林さんは、最初に名古屋市に避難しました。そこで1年間の避難生活を送りました。その後、南相馬市原町区内に仮設住宅が建設されたため、市内の仮設住宅へと移り住みました。

その間、双葉屋旅館は警戒区域内ということで、

手が付けられない状態でした。被災当初はほとんど見受けられなかった雨漏りも、建物が放置された状態で被害が拡大していました。

小林さんは、建物を改修するための国の補助金を得て、2013年8月から改修工事を開始。しかし、以前のように小林さん自身が旅館に住み込んでいるわけではありません。小林さんも当時は被害状況を完全に把握はできていなかったのです。そのため、工事費は当初の予定より1.5倍ほどに膨らみ、工事期間も約2年間に及びました。改修工事は2015年7月に終了し、被災から5年の歳月を経て、16室の客室を持つ双葉屋旅館が再スタートを切るまでに生まれ変わったのです。

同じ被災者として寄り添う

現在、南相馬市の避難指示区域では、2015年8月末から、避難指示の解除に向けて住民に長期滞在を認める「準備宿泊」を実施しています。これは、指示解除後の帰還に向けた準備を進めるため、希望する住民が元の家に長期間泊まれるよう国が許可する制度

です。しかし、ほとんどの家が約5年間放置された状態になっているため、南相馬市小高区に戻って来てすぐに住めるような状況ではありません。特に遠くに避難している市民は、南相馬市近郊に滞在し、まずは自宅に通いながら片付けや清掃を行う必要があります。

双葉屋旅館は、事業再開の準備を進める一方、南相馬市の委託事業で市外避難者向けの宿泊所に指定されており、南相馬市が「宿泊支援券」を発行した市民に対して客室を開放しています。小林さんは、宿泊者に寄り添い、同じ被災者として一人ひとりから震災後にそれぞれ歩んできた避難生活の話などにも耳を傾けています。

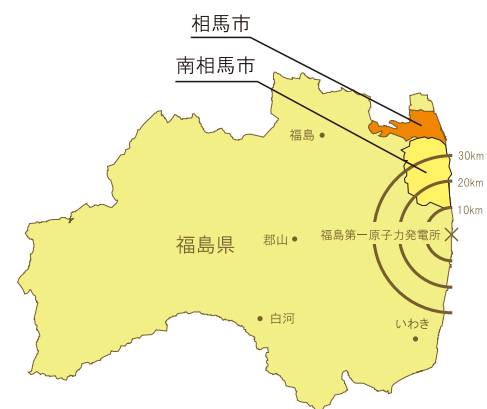
前例のない中で

震災前、小高区には約13,000人が暮らしていました。しかし、2011年3月の原発事故で避難指示区域に指定され、準備宿泊が許可された一部の市民を除き、現在も全員が避難生活を送っています。居住者ゼロのまちからの旅館業の再開。市民がどの程度戻るのか、街並みがどのように変化していくのか、不透明なことが多く前例もありません。双葉屋旅館の新たな挑戦がこれから始まります。

※記事の内容は、2016年2月12日の取材時のものです。

【店舗情報】

双葉屋旅館
福島県南相馬市小高区東町1丁目40
tel&fax:0244-44-2547



★そうまなぞなぞ 方言編 その14
「まていってなーんぞ？」
例「あの人はまていな仕事をするなあ！」

双葉屋旅館女将 小林友子さんに聞く 「きれいだね」と言われるまちに

双葉屋旅館の女将、小林友子さんに現在の旅館の様子や、将来のビジョンなどを聞きました。(聞き手・タカノシンジ)



小林友子さん

—現在、「準備宿泊」の期間中で、避難者を対象にした旅館宿泊事業の指定を受けていますが、どのような方が宿泊していますか？

「人それぞれですね。自宅の片づけだけでなく、自宅の除染の打ち合せのために泊まる人もいます。

でも、将来どうしたらいいのか整理がついていない、そんな人が多いかな。そういう意味では、割と困った顔をして来る人がほとんど。だから、たくさん話を聞くようにしています。そうすると、みんな帰るころには笑顔になるんです」

—そういった方と話をして感じることは何かありますか？

「ここに泊まる人は、県外など遠いところに避難している人。そうなる、仕方ないんだけど、南相馬市の情報はほとんど知らないんです。だから、市役所主催の住民説明会で配った資料などをコピーして配っています」

—双葉屋旅館の事業の再開に当たって、復興関係の補助金もあったと思いますか？

「支援はしてもらいました。それは確かにありがたかったんですけど、どうしてみんな今ある法令に沿った考えしかできないんでしょうね。今の法令で想定

していないことがここで起こっているわけです。そうしたら、そんな過去の事例に当てはめたら無意味でしょう。みんなまちを元の姿に戻そうとしているんですけど、もう元になんて戻りませんよ。新しいまちを創る発想でいかないと。でも、都会のようなニュータウンは似合いません。元々の自然を生かしつつ、前の生活も残しつつ、新しい考えを入れていくイメージでしょうか」

—小高区の皆さんと話す、「放射能」のことや「除染」が話題の中心となってしまっていますが、小林さんはどのように考えていますか？

「そこは、自分もとても気にしています。原発事故はまだ収束していないから。リスクはゼロじゃない。旅館の中や周辺の放射線量は徹底的に測ったし、その上で放射線量が低いということがわかって旅館の再開を決意したんだけど、今も双葉郡など高いところは本当に高いんです。食べ物や水も自分で測っているから、大体の傾向もわかってきました。果物は意外と検出されなくなっています。でも、やっぱりセシウムは土に付着しているんですね。そういう意味では、除染をしっかりとやってほしいと思っています」

—双葉屋旅館が再開することが決まって、小高区の皆さんからの反響も大きいのではないですか？

「そうですね。もうすでに避難指示解除を見越して、

4月以降に行う法要の申込の相談が何件かありますから」

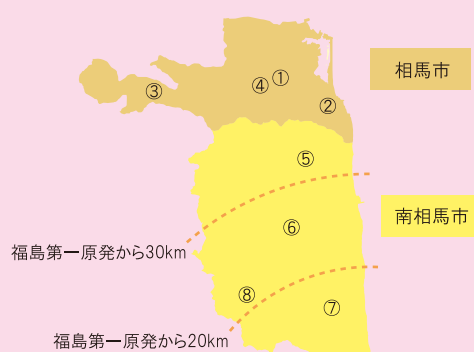
—今後、小高区のまち自体がどのように変わっていくのか、予測できない部分が多くありますが、双葉屋旅館として将来のビジョンがあれば教えてください。

「震災から5年、全国からたくさんの方のボランティアに出会ったし、知り合いも増えました。そういう人たちが気軽に泊まれる場所にしたいと思っています。帰り際に、こちらが『またいらしてください』と言ったら『また、来ます』と笑顔で言ってもらえるような旅館。私はそれだけで十分。そのために、少なくとも今後10年は続けたいんです」

—最後に、小林さん自身のビジョンを。

「自分の子どもには、今の状況で『小高に戻ろう』とは言えないんです。仕事もないし、まだ学校も始まらないし。震災から5年が経過して、避難先の生活に慣れてしまっているということもありますから。でも、元々小高って自然がきれいなところだったでしょう。だから、その自然を生かして、まちの中にベンチやテーブルなど置いて、くつろげる場所を作って、そういう風景を見ながら孫たちに『おばあちゃん、小高ってきれいなところだね』と言われたいんです。それが今の私の一番の夢ですね」

相馬市・南相馬市放射線レベル測定値 (2016年2月29日 単位=マイクロシーベルト/毎時)



①相馬市総合福祉センター(はまなす館)	0.162 (△0.013)
②磯部小学校	0.077 (—)
③玉野小学校	0.21 (△0.018)
④馬陵公園長友グラウンド	0.135 (0.006)
⑤鹿島区役所	0.161 (△0.01)
⑥南相馬市役所(原町区)	0.138 (△0.006)
⑦小高区役所(避難指示解除準備区域)	0.075 (△0.003)
⑧鉄山ダム(居住制限区域)	1.755 (△0.078)
東京(新宿区 東京都健康安全研究センター)	0.032 (△0.001)

カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。

ひろがる つながる

そうま・かえる新聞を配布して下さっている全国各地のお店を紹介します



▲ミュージシャンのタカノさんとそうま・かえる新聞

SHOP INFORMATION

〒440-0892 愛知県豊橋市新本町 63-2F
☎0532-55-0268
定休日：水曜

《kitchen & beer East Orange》

1995年にオープンし、2015年11月に豊橋市新本町に移転しました。和洋折衷の料理と、日本酒から洋酒と色々取り揃えています。

数多くのミュージシャンにも立ち寄りいただき、店の営業の傍らバンド「時限楽団#9」や「甘噛み」などでサックス吹いています。興味のある方は バンド、お店共々宜しくお願いします。

マスター タカオ



▲尾浜地区のソーラーパネルとその向こうに見える建設中の堤防

相馬の浜は今

菅野とし枝/相馬市

今年もまた3月11日がやってきました。5年という年月は、毎日の積み重ねの上にあり、そこにまた毎日が積み重ねられていく。「5年という区切りの年」とよく聞かれますが、私はそこに特別な意味を見出せません。5年が過ぎていまだに「ふくいち」(東電福島第1原発)は安定、安心とはほど遠い状態で、福島のローカルニュースは常に「ふくいち」の話題が途切れることはないのです。外の地域ではもう終わったもの、と思っている人も少なくはないのでは?とんでもない、終わるところかバリアの現在進行形。まだまだ先が見えない状態です。

その一方で、地震と津波被害からの復興は着実に進んでいるように思います。相馬市全体の被害は死者458人、被災家屋は一部損壊も含めて5500棟を超えました。そのうちのほとんどが沿岸部に集中。沿岸部では津波により1990棟以上が流出しました。震災直後はがれきの山で、はたしてここから復興なんてするのだろうか?とさえ思いました。そんな沿岸部もこの5年でいぶ復興してきています。

相馬市では津波被害にあった土地のうち110%が災害危険区域に指定され、住居の建築が認められません。その広大な土地に新たに建設されているのは太陽光発電のソーラーパネルです。原釜・尾浜地区のほか、磯部地区でもメガソーラー事業が今後の沿岸地域の活性化に大きく関わってくることでしょう。

そのソーラーパネルの向うに建設中の白い堤防が延々と見えます。これが完成すると景観はどうなるのでしょうか。守られている、と思えるのでしょうか?それとも圧迫感を感じるのでしょうか?

尾浜海水浴場では砂浜の整備が行われています。震災後しばらくは止まったままだった展望台の時計も、現在の時を刻んでいます。

しかし、原発事故の影響で、海水浴場として再開できるのはいつになるのでしょうか。かつては夏になると大渋滞を巻き起こすくらい海水浴客が訪れていたのですが...

松川浦漁港に水産業共同利用施設として漁労倉庫と荷捌き施設が新しく完成しました。住居を建てられる土地には限りがあり、以前のように自宅で漁具の管理をすることが難しいことから、港のそばに漁労倉庫を建設したそうです。



▲砂浜を整地するための重機

福島県では試験操業で3万件を超えるモニタリング調査を行っており、その結果、安全が確認されたものは県内のほか、築地や仙台、名古屋などへも出荷されるようになりました。2015年12月末の時点で71種類の魚介類が試験操業されています。しかし、試験操業以外の漁はできず、出番を待つ船達が整然と並んで、操業再開を待っているのです。

松川浦地区は入り江に面しているため、家屋の流出被害が比較的少なくすみました。災害危険区域にも指定されず、再建された民宿も多数あります。

東北の沿岸部をつなぐ「みちのく潮風トレイル」の南の玄関口が、津波被害から整備し直された相馬松川浦環境公園にあります。このトレイルが全線開通したら、より多くの人が相馬に足を運んでくれるようになるでしょうか。そのためには日本百景の松川浦が復活する日を心待ちにしています。



▲住職分離の概念で整備された漁労倉庫



(上)▲新たに整備された荷捌き施設。近くには釣り人の姿も
(中)▲隅々まで手入れされ、出番を待つ漁船
(下)▲みちのく潮風トレイルは青森県八戸市から相馬市まで続く

私は震災のあとは3年近く相馬の海に近づけませんでした。大好きだった景色が変わり果ててしまった姿を見るのが辛く、現実から目をそらしていました。しかし、やがてちゃんと向き合っていくことができるようになり、今はこの相馬の海が少しずつ復活していく様子を見守って行けたら、と思っています。

「相馬の海は最高だよ!」と言える日がまた来ることを強く願って止みません。

そうま × 札幌

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

「楽しさから生まれるものを」

円山夜想 本間健二(札幌市在住)

2011年3月にあの日があったから、私達は優しい気持ちをもう一度持ったのかもしれない。「言葉に一体何の意味がある?」と言ったのはあのバンド、沢山の思いやりが溢れていました。でも今はそれどころじゃない話題がテレビや新聞に溢れていて、何を頼りにしてよいのやら、見えない力が増えてきました。



▲5日に開かれた500L。最後に出演者全員で演奏した

あれから、この札幌で何ができるだろうと、想いを巡らせ、広島県福山市のカフェ「ポレポレ」さんが始めた500円ライブを始めたのです。音楽は必要なのか?音楽で何ができるのか?ということ考えた結果です。それが500L(ゴヒャクエル)という支援と言えおこがましいですが、私たちが忘れないためのエネルギー。次の世代に引き継ぐ力となったのです。

500Lは私たちに負担のないワンコインの募金と、L(エル)から始まる言葉、LIVE、LIFE、LOVE、LIGHT、LIKE、LABOR、LISTEN、LONG...。500Lで堅苦しくなく楽しさから生まれるものを皆で分け合えればと思います。

そして500Lは500回開催を目標にしています。年に4回しか開催しないのは、戻るまでに時間が掛かるのが分かっている、長い想いが必要だと思ったから。500Lが全て終わるのに125年の時間が掛かります。当然僕は生きていませんが、次の世代、そのまた次の世代に引き継ぎながら細く長く続けたいと思っています。

500回全て開催して初めて500Lが完結するの

かもしれませんし、相馬、南相馬に人々が戻ってくるのかも知れません。長い長い時間と目に見えないモノが待っていますが、恐れずにやりたいと思います。

私は、阪神淡路大震災の8年後、神戸に住んでおり、当時のお話を被災された方々に聞きました。その皆さんがおっしゃるのは、いなくなった人たちの分も生きよう、いなくなった人たちがやれなかったことを自分達でやっということでした。ある人は歌うことを生業とし、ある人は共有オフィスを開業し、ある人はあの日のことを絵本にして語り継ぎ。そしてそれが「好きなことをやって生きてやる」という個人の強いエネルギーになっていました。放射能の災害が無かった神戸だったから、あんなに早く綺麗な街並みに戻ったのでしょう。

福島に、もし放射能の問題が無ければ、きっと神戸のように美しくたくましい街に戻っていたと想像しています。

札幌でもたくさんの復興イベントが行われています。食と絡めたり、音楽だったり、ゲストを呼んでのセミナーだったり。円山夜想では「楽しさから生まれるものを分け合おう」というエンターテインメントで参加しようと思いました。全ての出演者に500Lの主旨を説明し参加してもらいました。毎回、福島産の日本酒を振る舞ったり、そうま・かえる新聞を見てもらったり、募金先であるMY LIFE IS MY MESSAGEの活動状況をお話ししたりと、少しでも福島のことを忘れないようにと取り組んでいます。その結果、自ら意識を持って参加してくれる方も増えてきました。ある方は英語が堪能なので海外の友人から情



▲500Lの募金箱と円山夜想に出演したミュージシャン

報を得て、アメリカから見た福島のお話をしてくれたり、ある方は東北から北海道に引っ越されたので、現地の現状を伝えてくれたりと、出演者みんなでの500Lを作っていけるようにもなりました。これもたくさんの出演者に賛同していただいたことと、たくさんのお客様に募金をしていただいた結果だと思っています。本当に心から感謝しています。

最後に、楽しさから生まれるものに負のエネルギーはありません!

もっと、たくさんの方々を楽しみながら、福島のことを想っていただければ幸いです。

円山夜想ホームページ
<http://www.marunoku.com/>

MY LIFE IS MY MESSAGE. Presents ポレポレ方式復興応援ライブ全国大会 in SOMA CITY

広島県福山市のカフェ「ポレポレ」で東日本大震災後に始まった、出演者が500円を払い3曲歌う「東日本大震災復興応援ライブ」を5月14日、相馬市の菊地蔵で開きます。

ポレポレのライブは2月に60回を迎え、今も新しい参加者がいます。さらに、札幌の円山夜想など各地で同様のライブが開かれており、出演者が払った500円などライブで得られた寄付金は被災地に贈られてきました。

今回は、ポレポレ方式ライブを開催している仲間たちが集うイベントを相馬市でMY LIFE IS MY MESSAGEが企画しました。いつも遠くから被災地を見守ってくれていた仲間たちに、現地の様子を感じてもらうとともに、被災地の人たちにも遠くで活動し続けている仲間たちを知ってもらい、お互いの思いを還流させる試みです。詳細はMY LIFE IS MY MESSAGEのホームページで紹介しています。音楽を通じ楽しいひとときを共有しましょう。

■2016年5月14日(土)
会場:菊地蔵(福島県相馬市中村字多川町17)



編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさんのお愛のあるサポートをいただいて「そうま・かえる新聞」は発行されています。12/1~2/29までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、210,954円です。ご支援、本当にありがとうございます。

次号は2016年6月発行予定です。



【そうま・かえる新聞】
2016年3月 第22号
発行元 そうま・かえる新聞編集部
<http://somakaeru.com>
連絡先 そうま・かえる新聞編集部
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただくと幸いです。

- 郵便局からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290
番号/30483531
- 他銀行からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読みハチニハチ)
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/3048353
口座名/そうまかえる新聞編集部

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3
モリタミュージック内
編集 相馬市・南相馬市ほか有志
協力 かえる新聞(いわきの子供を守るネットワーク)

★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。